

江戸期の駒込絵図(国立国会図書館蔵に追記)  
神明社が鷹の御用地に取り囲まれている

幕末期の駒込富士神社(左)と天祖神社の参道(右上)、駒込名主屋敷(高木家住宅・天祖神社の左隣)  
「安政年代駒込富士神社周辺之図」(文京ふるさと歴史館蔵)より

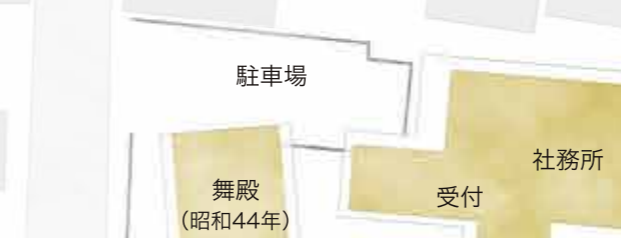


駒込名主屋敷(東京都史跡)  
天祖神社模型



子育て地蔵  
亀石

溶岩に乗る狛犬



天祖神社拝殿  
天祖神社本殿

天祖神社(二鷹)

駒込の氏神として「神明さま」と親しまれてきた天祖神社(明治期に改称)は、文治5(1189)年に源頼朝が奥羽征討へ向かう途中で、この地に立ち寄ったことが縁で創建され、その後、慶安年間(1650年頃)に堀丹後守利直により再興されたとされています。新編武蔵風土記稿(1830年頃)には、慶長(1600年前後)の頃に高木将監という人が村を開き、上駒込村神明神社は、そのひとの林園に社地がありその内に鎮座していると記されています。本殿の東にある慶安元年銘の庚申塔には、その当時の名主である高木将監の名も刻まれています。現在の社殿は戦後に再建されたものですが、境内には寛政期(1790年頃)の灯籠や碑も見られ、古くから信仰を集めていたことが偲ばれます。また、鷹狩と関連の深い土地柄から、本殿南横には「御鷹匠」、東参道の鳥居脇には「御鷹組」により奉納された石柱も見られます。

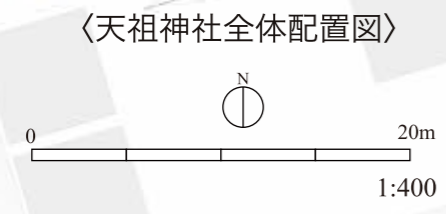
毎年9月中旬の土日は例大祭で賑わいます。本祭は4年に一度で、次は2020年。千貫神輿といわれる大正11年の大きなお神輿が町内を巡り、団子坂上の満足稲荷まで渡御します(表紙・赤点線)。この満足稲荷のお神輿は、ご近所の著名な彫刻家・高村光雲の作。



庚申塔(慶安元年銘)  
庚申塔群



表門  
▲ 木戸・屋敷入口  
大鳥居(昭和四三年)  
←本郷通り(日光御成道)  
天祖神社碑(明治三四年)



御鷹組石柱  
東参道

神輿蔵  
手水舎

大狛犬

本社神輿

御鷹匠欄干

東参道